

## 第2章 いじめの未然防止

### 4 「学級活動」を通して（中学校編）

#### 1 ソーシャル・スキル・トレーニング

生活様式の変化、価値観の多様性など、児童生徒を取り巻く環境は急速に、大幅に変化している。そのような環境の変化に伴い、家族、地域などの共同体のつながりが希薄化し、他者との生活経験が少ない児童生徒が増える傾向にある。人間関係調整力、困難に立ち向かう忍耐力の乏しさから、トラブルに直面した際の対応力が育たず、それがいじめ事案の増加の一因となっている。

そこで、人間関係調整力や対応力の向上を図る方策として、学級活動にソーシャル・スキル・トレーニング（以下、SST）を取り入れたい。

#### 2 SSTを学級活動で行う

##### (1) 年間行事と関連付ける

	月	行事等	SST
出会い、絆の構築 → 関係を築くスキル	4 ・ 5	新任式・入学式 生徒会リエンション 遠足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをする（1年）</li> <li>・自己紹介をする（1年）</li> <li>・仲間に誘う（2年）</li> <li>・仲間に加わる（3年）</li> </ul>
絆の深まり → 主張するスキル（※）	6 ～ 8	夏祭り・民踊流し 夏休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきり伝える（1年）</li> <li>・きっぱりと断る（2年）</li> <li>・やさしく頼む（3年）</li> </ul>
絆の広がり → 関係を広げるスキル	9 ～ 12	体育祭 職業講話（1年） 職場体験（2年） 上級学校訪問（3年） 合唱コンクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり話を聞く（1年）</li> <li>・上手に質問する（2年）</li> <li>・気持ちに共感する（3年）</li> <li>・あたたかい言葉をかける（3年）</li> </ul>
進級・進学、絆の確立 → 問題を解決するスキル	1 ～ 3	卒業集会 卒業式 修学旅行（2年）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと謝る（1年）</li> <li>・怒りをコントロールする（2年）</li> <li>・トラブルの解決策を考える（2年）</li> </ul>

行事とリンクさせるとともに、3年間で系統的に学習することが大切である。

##### (2) 2年生 「きっぱりと断る」SSTの授業～(1)の※を例に～

○ねらい 夏休みは祭りに出かけるなど生徒同士で遊ぶ機会が多い。そんな機会を通してお互いの絆を深めていく一方で、生徒の中には「断ることは友達に対してよいことではない」と思い、無理をして誘いに乗ってしまう場合がある。時と場合によっては「きっぱりと断る」ことがお互いのためになる「友達がいのちのある、自他を尊重する行為」であることを知り、相手を傷つけない適切な断り方を身に付ける。

○展開例

		学習活動
「なぜ、このスキルが必要なのか？」学ぶ意義を共有する。	導入	<p>1 断る場面・断り方について考える</p> <p>○断ったほうがよい場面はどんなときかを挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪い誘いを受けたとき</li> <li>・引き受けたら自分が困るとき</li> </ul> <p>○これまででうまく断れずに困ったときを具体例として挙げる。</p> <p>○「どうやったら相手を傷つけず、上手な断り方ができるか」について考えることを確認する。</p>
教師（代表生徒）のロールプレイを見て、不適切なモデルから、どうすればよかったのか？を考える。	展開①	<p>課題： 相手を傷つけない上手な断り方を身につけよう</p> <p>2 教師（代表生徒）のロールプレイを見る</p> <p>「放課後、友達が家に来ないかと誘ってきたよ。だけど、Aくんには歯医者さんの予定があるのですが…」</p> <p><b>B：帰ったら、僕の家で遊ばない？</b></p> <p><b>A：今日は無理っ！！（ぞんざいに断る）</b></p> <p><b>B：何だよっ。</b></p> <p>○モデルを見た後、どう感じたか感想を発表する。</p> <p>○どうすればよかったかを考える。</p> <p>①謝罪の言葉、②理由、③断りの言葉、④代わりの案</p>
生徒自身が実際にやってみる。	展開②	<p>3 実際にやってみる</p> <p>「それでは、次の場面を実際にやってみましょう。あなたが夏祭りに友達と出かけた時、友達が『ねえ、今日ちょっとお金を少ししか持ってきていないから、ちょっとお金貸してくれる？』とあなたに言いました。家の人がかくれたお小遣いですし、あなたは食べたい物や買いたい物があります。お金を貸してしまったらいろいろ買えなくなりますが…」</p> <p>○展開①をヒントに行う</p> <p>○グループで頼む人、断る人、それ以外は観察する人と役割を決め、見て気づいたことをアドバイスする。</p>
展開①をヒントにする。アドバイスでは、悪かったことを指摘するのではなく、よかったところを共有する。		<p>4 振り返り</p> <p>○学習の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に断る場面があれば、学んだことを生かしてやってみよう。</li> </ul>
実際の場面でも活用してみようとする意欲の高まりがポイントとなる。	まとめ	

※日常生活の中で、SSTの成果が見られず、学級が落ち着かなくなったり粗野な言動が目立ったりすることがある。SSTは年間計画に位置付けて行うことを基本とするが、学年や学級の実態に応じて、SSTの学び直しや、実際の行動場面を取り上げて、「〇〇のときは、～～すればよい」など、振り返りを行うことも有効である。学年や学級で共有したスキルを、日々の学校生活で生かすことで、SSTは意義ある活動となる。

- 行事とリンクしたSSTを組み込み、3年間で系統的に学習するよう計画的に行う。
- SSTのポイントを押さえ、実際の場面で生きるスキルにする。

\*参考文献 「イラスト版子どものソーシャルスキル-友だち関係に勇気と自信がつく42のメソッド」相川充・猪刈恵美子（合同出版）  
「特別支援教育 実践 ソーシャルスキルマニュアル」上野一彦・岡田智（明治図書）  
「実践！ソーシャルスキル教育 中学校-対人関係能力を育てる授業の最前線」相川充・佐藤正二編集（図書文化社）